

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有  
〒207-0015  
東京都東大和市中央1-539-15  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

# 東北再興

Re-Create, TOHOKU!

無料

## 第132号

毎月発行

発行 2023年(令和5年)5月16日 火曜日

2023年(令和5年)5月16日 火曜日

【当新聞発行責任者  
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、69歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の大崎上映会は延期。とりて越奮文を日



## 新型コロナはようやく【5類】へ

### 「アフターコロナ」により日本はどう変化するのか？

### 東北はどうなっていくのか？良くなるのか？悪くなるのか？

今月8日から、ようやく、新型コロナはようやく【5類】へ移行したが、約3年間にわたる、あらゆる分野での社会活動停滞は、今後のこの国に何をもたらすのだろうか？そして東北はどうなるのだろうか？

ようやく新型コロナは【5類】へ移行

「ようやく、やっと」というべきか、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が今月8日、季節性インフルエンザと同じ5類に移行し、約3年にわたる新型コロナ対策は「ほぼ平時」に戻りつつある。

これまで感染防止対策と社会経済活動の両立に苦しんだ国や地方自治体や、行動制限などで停滞した大都市圏と地方の飲食店や観光地などは、5類移行後、どうなっていくのだろうか？それだけでなく、新型コロナ対策と称して打ち出されてきた諸施策が、今後この国をどう変えていくのだろうか？

新型コロナウイルス対応がもたらしたものは広範囲に亘り、簡単にはまとめきれないもので、個別の問題に分割して振り返りたいと思う。

元に戻らないもの

アフターコロナで、元に戻らないと思われることはたくさんあるが、主なものを取り上げてみる。

①居酒屋バブル破裂

すでに報道等で指摘されているが、飲食業はどうも元には戻らないようだ。

気が進まない「社内コミュニケーション」としての「ノミネーション」は、この三年間の強制中断によって、その存在意義を失った。

やらなくて何の問題がないのだから、アフターコロナでも必要ない。

あまり気が進まないが、もともと付き合い合いうことで、いやいや上司等に付き合っていたのだが、新型コロナで、「断る口実」が出来たのだ。

だから、もう「ノミネーション」の復活は望めない。

その結果として、地方よりも東京圏、なかでも都心の

部の廃業率、店舗閉鎖率が二桁を越えているという。

他方、増えているのは友人たちとの気の置けない飲み会である。

とはいえ、これらは「居酒屋バブル」がはじけた結果といえるであろう。

②だまされた感がより強くなった

新型コロナ対策に関する政府、特に厚生労働省への信頼は、従来も落ち目のところだったが、さらにガタ落ちで、もう元に戻ることはけっしてないだろう。

新型コロナ禍発生当初から、先ごろまで一貫して、胡散臭い策動が感じられた。

やること、なすことが国民のことをほんとうに考えているのかと非常に疑問に感じる場面が多々あった。

正確な状況判断、それに基づいた対策など、疑問符がつくものが目に付いた。

元に戻るもの

この三年間の新型コロナで、大きく変化していくにちがいないと騒がれたことがたくさんあるが、過去の騒ぎにかかわらず、徐々に元に戻っていくと思われることがある。

①リモートワークから普通の勤務へ  
新型コロナの渦中では、

上場居酒屋チェーン16社の2022年12月末の店舗数は5,334店で、1年間で352店(6.1%減)減少した。2021年(1-12月)の390店(6.4%減)と同様、年間6%台のペースで減少している。東京商工リサーチが報じた。16社の店舗数は、コロナ前の2019年12月末は6,661店から比べると、コロナ禍で1,327店(19.9%減)減少したことになる。コロナ前から最も店舗の減少率が大きいのは、上位から55.5%減、43.7%減、43.6%減。一方で店舗を増やす企業も出ている。串カツ、餃子、餃子や韓国料理など。……フードリンクニュースより

②旅行

都道府県をまたいだ旅行が可能になった途端、全国の観光地に一挙に人があふれた。これまでのうっ憤を晴らすかのような爆発的な旅行移動である。

「出るな!」、「移動するな!」と三年間も言われ続けた反動が一挙に噴出した形だった。みな、ずい分我慢していたのだろう。

他方、海外旅行は低調のようだ。しかし、いずれ海外旅行も回復するであろう。

そもそも新型コロナの発生時の対応はどうだったか？

①日本人最初の感染者のこと

国立感染症研究所によると、日本人初の新型コロナ感染者発生状況は以下の通り。

ようなことだった。少し長くなるが以下、原文のまま引用する。

患者Aは、2020年1月3日(以下、特記しない日付は2020年)に中国武漢市に滞在中に発熱を認め、帰国日の1月6日に日本国内のクリニックでインフルエンザ迅速診断キット陰性とされ、自宅療養をしていたが、症状が軽快しな

いため、1月10日にX病院を受診し、胸部レントゲン写真で肺炎像が確認された。1月13日には肺炎症状が改善をみないことを受け、1月14日に管轄保健所により行政検査の手続きがとられ、1月15日夜に確定診断がなされ、日本国内で検知された新型コロナウィルス感染症第一例目となった。世界保健機関(WHO)に対しては1月16日未明に国際保

### 日本国内のスペイン風邪の流行状況

※内務省衛生局編「流行性感冒」を基に作成

流行期間	患者数(人)	死者数(人)	患者における死者数の割合(%)
第1波 大正7年8月～8年7月	2116万8398	25万7363	1.22
第2波 大正8年10月～9年7月	241万2097	12万7666	5.29
第3波 大正9年8月～10年7月	22万4178	3698	1.65
計	2380万4673	38万8727	1.63

大正7-10年のスペイン風邪による国内被害・・・内務省衛生局資料

健康規則に基づいて症例の発生が通告された。

患者Aは、2019年12月20日に日本から武漢入りし、1月6日に帰国するまで、患者Aの家族とともに両親・弟家族の家に滞在した。患者Aは、今回の武漢市滞在中に、武漢市において当時の感染源と推定されていた海鮮市場の訪問歴、また中国国内での医療機関の受診歴等、その他のリスク行動はなかった。

一方、患者Aの父親(B氏とする)が2019年12月28日に発熱し、自宅近所のクリニックに通院し、「普通の風邪」として治療を受けていた。1月7日に、B氏は武漢市内の病院に入院し、CT画像上の肺炎所見と入院日に採取された血液の検査における肺炎クラミジア(陽性)の陽性(陽性)によってクラミジア肺炎と診断されたことである。

12月20日に患者Aが、武漢市入りした後、12月28日にB氏が発熱するまでのB氏の行動歴は、患者Aによると、近所の外出や買い物程

度であり、医療機関の受診や海鮮市場への訪問、同居家族を含め明らかに症状のある者との接触歴はなかった。

B氏は、平素は武漢で妻と、次男家族(次男、妻、子供1名)の5人暮らし。12月20日に、患者Aとその子供2名が、12月27日には、患者Aの妻が合流し、1月6日に患者Aの家族4名が帰国するまで、B氏の家に計9名が滞在していた。

1月3日に、患者A以外に、患者Aの妻、患者Aの弟が発熱し、患者Aの妻は、翌日に解熱、患者Aの弟は、1月7日に解熱したとのことである。つまり、B氏の同居者、成人5名のうち、3名が同時に発熱していた。

明らかに、中国・武漢で



新型コロナの累積感染者数・・・NHK 資料より

感染したのであるから、その時点で、中国・武漢との往来を禁じるべきであったが、なぜか政府も厚生労働省もそうした措置を採らなかった。

中国との外交問題化を避けたのかもしれないが、国民を守るといふ視点が欠落していると思えない。

②最初に感染者数が増えたのは札幌雪祭り

以下は日本経済新聞の2020年2月29日の記事からの抜粋である。少し長いがそのまま引用する。

新型コロナウイルスの感染が拡大している北海道で、国内外から約200万人の観光客が訪れた「さっぽろ雪まつり」(札幌市)が閉幕した後の13日から発症者

が急増していたことが29日分かった。道内各地のほか千歳、熊本両県でも雪まつりの観光客が発症している。(中略)

道内では同じく雪まつり後の2月13～15日に北見市で開催された展示会に参加した人で新たな感染者の集団(クラスター)が発生した疑いが浮上。(中略)

北海道では1月26日、中国・武漢市から観光に訪れた40代女性が初めて発症。女性の訪問先は明らかになっていないが、同月31日に札幌市内の自営業の50代男性が発症、重症となった。男性は直近で渡航歴はなかった。

同市内では2月8日に40代男性が発症。さっぽろ雪まつりの会場に設けられたプレハブ小屋で事務作業す



新型コロナの累積死者数・・・NHK 資料より

が急増していたことが29日分かった。道内各地のほか千歳、熊本両県でも雪まつりの観光客が発症している。(中略)

道内では同じく雪まつり後の2月13～15日に北見市で開催された展示会に参加した人で新たな感染者の集団(クラスター)が発生した疑いが浮上。(中略)

北海道では1月26日、中国・武漢市から観光に訪れた40代女性が初めて発症。女性の訪問先は明らかになっていないが、同月31日に札幌市内の自営業の50代男性が発症、重症となった。男性は直近で渡航歴はなかった。

同市内では2月8日に40代男性が発症。さっぽろ雪まつりの会場に設けられたプレハブ小屋で事務作業す

感染の源である。

ここでも時の政府の弱腰の対中国姿勢で、国内に一齐に新型コロナが広がったのだ。

③クルーズ船での対応に差

自衛隊と厚生労働省

日本に寄港中のクルーズ船の調査の時、とても驚いたことがある。

厚生労働省職員が防護服も何も身に着けず、スーツ姿のまま、クルーズ船の入り口付近をうろついていた。何という危機意識の欠落。

同時期に詰めていた「完全武装」の自衛隊員との落差は一体何なんだろう？

こうした人間たちに、新型コロナ禍の対応を任せたいことを思い出して、あらためて身震いする。

明らかに、中国からの旅行者、札幌雪祭り観光客が

「もろおか」紹介記事が出た途端に、国内外から一挙に観光客が殺到した。

日本といえば、京都・奈良という定番メニューに飽き飽きしていたところに、この記事に飛びついたようだ。

記事ひとつで観光も大きく変化する。

他方、中国地方にある街の居酒屋の「一元さんお断り看板」も話題となっている。結果、一居酒屋の範囲を超えて、この街も、県も巻き込んだ騒ぎになっている。

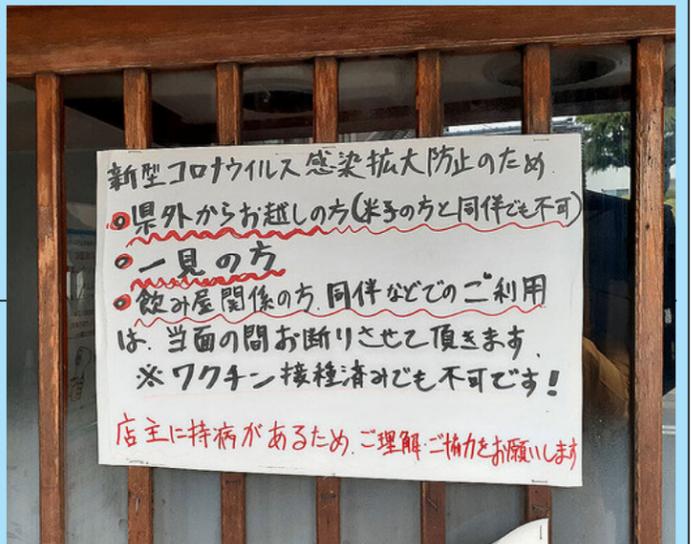
地方の閉鎖性が観光に大打撃を与える最悪のケース。東北もこの事例に十二分に学ぶべきであろう。

「ワクチン疑惑」

ワクチン開発に関しては、当初から「疑念」があった。世界中の大金持ちの超ビッグビジネスチャンスというところで、とにかくワクチンを粗製乱造しても、投与しなければならぬと、世界のネットを駆使して宣伝した。あのワクチンの効果は事後検証すべきと思う。

②「助成金」で赤字病院救済

新型コロナまん延以前から、国内の国公立病院だけでなく、全国の私立病院も赤字がささやかれていた。



中国地方のある都市の居酒屋の入場制限

東京都内の超有名な大病院も例外なく赤字で、黒字はわずかにひとつしかないというありさまだった。

こうした状況下、平均すると一病院あたり、八億円の利益が出たというわけもある助成金という莫大な国の税金を投入したのだ。しかも、新型コロナ患者を受け容れない病院まであった。詐欺としか思えない。

③スペイン風邪に比べたら規模が小さいのになぜ大騒ぎ?

大正時代に大流行したスペイン風邪と新型コロナを比較してみよう。

被害は双方ともに大きいが、死者の規模が違い過ぎる。それなのに、世の終わりのように騒いだ今回の新型コロナ禍。だれかの金儲けのためだったと言われて仕方がないではないか?

「もろおか」紹介記事が出た途端に、国内外から一挙に観光客が殺到した。

日本といえば、京都・奈良という定番メニューに飽き飽きしていたところに、この記事に飛びついたようだ。

記事ひとつで観光も大きく変化する。

他方、中国地方にある街の居酒屋の「一元さんお断り看板」も話題となっている。結果、一居酒屋の範囲を超えて、この街も、県も巻き込んだ騒ぎになっている。

地方の閉鎖性が観光に大打撃を与える最悪のケース。東北もこの事例に十二分に学ぶべきであろう。

# 国内外で東北の野球選手が躍動!

## ラグビーリーグワンD2残留/釜石シーウェイブス

大谷翔平選手は5月というのに今年のMVP候補一番手!  
岩手・花巻東の先輩・菊池雄星も5勝目!国内からは佐々木朗希  
投手が大活躍!釜石シーウェイブスはD2残留決定!



5月時点で2023年MLBのMVP候補の大谷翔平・・・実現すれば、2021MVP、2022MVP2位、WBCでMVP、そして2023MVPって・・・

まだ、新シーズン入りしてわずか1か月あまりなのに、すでにリーグ2023のMVP候補の大谷翔平!

### ア・リーグ MVP候補ランキング

- 1位 大谷翔平(エンゼルス)【1位票=30票】
- 2位 ワンダー・フランコ(レイズ)【1位票=3票】
- 3位 マット・チャップマン(ブルージェイズ)【1位票=1票】
- 4位 ランディ・アロザレーナ(レイズ)【1位票=6票】
- 5位 マイク・トラウト(エンゼルス)【1位票=2票】



菊池雄星・・・今期5勝目の力強いフォーム・・・田口有史が振り返るスポーツ名場面より



はにかんだ表情もまたいい!田口有史が振り返るスポーツ名場面より



佐々木朗希が3、4月バ投手月間MVPに2度目の受賞・・・中日スポーツより



釜石シーウェイブス・・・D2/D3入替で勝利しD2残留決定!・・・釜石シーウェイブスRFCより

# 「東北復興ツーリズム推進 ネットワーク(仮称)」への期待

## JR東日本のニュー スリリース

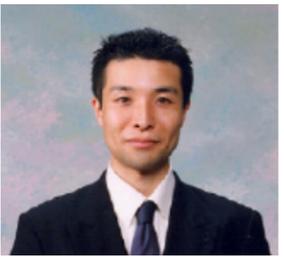
JR東日本が五月九日、「東北における復興ツーリズムの推進について」というニュー スリリースを出した。まず、「JR東日本は、東日本大震災から二二年を経て、東北各地で震災伝承施設などの整備が進んだことを契機に、地域の皆さまと連携して東北における復興ツーリズムを推進していきます」と宣言している。その意義として「震災の記憶を風化させないよう

## 「震災伝承施設」はどれだけ知られているか

この動きはとも望ましく、かつ重要である。だいぶ以前、二〇二二年一二月刊行の本紙第七号に「震災遺構をどうするか」を寄稿した。ここでは、当時震災の爪痕を記す遺構をどうするかについて、被災地で保存に對して賛否両論あることも踏まえつつ、北海道南西沖地震の奥尻島、阪神・淡路大震災の淡路島、新潟県中越地震の長岡・小千谷両市、そして広島市の「原爆ド

## 執筆者紹介

大友浩平 (おともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
http://blog.livedoor.jp/anagma5/



Facebook  
https://www.facebook.com/kouchi.ohtomo

ーム」などの事例を検証しながら、「被災全市町村が最低一つ震災遺構保存を」と提言した。

その後、東北地方整備局が事務局を務め、青森・岩手・宮城・福島各県と仙台市、それに復興庁でつくる「震災伝承ネットワーク協議会」が立ち上がった。同協議会は、震災伝承をより効果的・効率的に行うためにネットワーク化に向けた連携を図り、交流促進や地域創生とあわせて、地域の防災力強化に資することを目的に設立され、定期的に会合を行い、「教訓が、いのちを救う」をキーワードに、東日本大震災の事実や記憶、経験や教訓を伝えること

## さまざまな取り組み

ちなみに、この「三・一一伝承ロード」のような、東日本大震災被災地に点在する震災に関連するモノやコトを線で結ぶという取り組みは他にもある。

「みちのく潮風トレイル」は、東日本大震災からの復興のために環境省が策定した「グリーン復興プロジェクト」の取り組みの一つである。環境省と関係自治体、民間団体、地域住民の協働によって、様々な所有者によって管理されている道をつないで、北は青森県の八戸市蕪島から南は福島県の相馬市松川浦まで、全長一〇〇キロを超える「ナショナルトレイル」(国が管理する歩かための道)として二〇一九年に全線開通した。震災の痕跡ばかりでなく、東北の太平洋沿岸ならではの雄大な海、川、里、森が連続する美しい景観、自然と共にある人々の暮らし、積み重ねられた歴史や文化を体感できることが謳われ

だけいるだろうか。同協議会が登録した「震災伝承施設」の一覧を眺め、実際に自ら足を運んだ人がどれだけいるだろうか。これらの施設に実際に足を運んでもらうための仕組みや仕掛けこそが必要なのである。今回のJR東日本の発表は、まさにこうした「震災伝承施設」を知ってもらい、足を運んでもらうための具体的なプランとアクションである。

「語り継ぐことこそが、最大の防災である」として、多くの方々に巡礼地を辿ってもらい、語り継いでもらうことを目指して活動を続けている。

他にも、「桜ライン三・一一」、「さくら並木ネットワーク」、「さくらプロジェクト」の取り組みの一つである。環境省と関係自治体、民間団体、地域住民の協働によって、様々な所有者によって管理されている道をつないで、北は青森県の八戸市蕪島から南は福島県の相馬市松川浦まで、全長一〇〇キロを超える「ナショナルトレイル」(国が管理する歩かための道)として二〇一九年に全線開通した。震災の痕跡ばかりでなく、東北の太平洋沿岸ならではの雄大な海、川、里、森が連続する美しい景観、自然と共にある人々の暮らし、積み重ねられた歴史や文化を体感できることが謳われ

## 復興ツーリズム推進の概要

今回JR東日本が挙げた復興ツーリズム推進の目的は二つ、一つは東北独自のものである実際に震災伝承施設を訪問して学べる防災・減災プログラムを教育旅行や企業研修向けに周知して東北への誘致を推進すること、もう一つはそうした防災・減災学習に加え、広大な自然や独特の文

化・おいしい食なども満喫できる東北」を、特に若年層へ訴求して繰り返し訪問するきっかけをつくり、交流人口の創出につなげることであった。そして、その「目指す姿」として「教育旅行の訪問先として選択される東北」を挙げている。すなわち、防災・減災に関する独自の教育・研修が受けられるという他地域と比較した際の東北の利点を取っ掛かりとして、単にそれだけにどまらずに併せて東北の自然や食を含む文化も体感してもらおうことで、東北が

規模の大きなもので、JR東日本が事務局を務めることになっている。そこで実施される事業としては、①モデルコースの整備 ②旅行商品の造成 ③教育旅行の誘致 ④震災伝承施設や各種コンテンツの情報集約・発信、⑤インバウンドの誘致の五つを挙げている。

③については、教育旅行の受け入れに関する各震災伝承施設の情報を収集して旅行会社と協力して学校などへの働きかけを行って東北への誘致を推進する、「東北観光推進機構」と連携して教育旅行の誘致を行い、旅行会社との商談会や教職員との相談会に参加することとしている。

④については、震災伝承施設や東北の豊富なコンテンツの情報を集約して交通広告媒体などを活用して広く発信すると共に、復興庁が発行した「東日本大震災伝承施設ガイド」を、JR東日本管内の「駅たびコンシエール」に設置、新幹線車内サービス誌「トランヴェール」でも紹介する、JR東日本のウェブサイトに復興ツーリズムに関するポータルサイトを開設する、JR東日本が主催する「復興ツーリズムの魅力を伝える」冊子を開発する、などとしている。

⑤については、東北観光推進機構や旅行会社、航空会社と連携して、インバウンドの誘致に向けて海外の旅行会社やランドオペレーターに向けた情報発信を行うことである。

③については、教育旅行の受け入れに関する各震災伝承施設の情報を収集して旅行会社と協力して学校などへの働きかけを行って東北への誘致を推進する、「東北観光推進機構」と連携して教育旅行の誘致を行い、旅行会社との商談会や教職員との相談会に参加することとしている。

④については、震災伝承施設や東北の豊富なコンテンツの情報を集約して交通広告媒体などを活用して広く発信すると共に、復興庁が発行した「東日本大震災伝承施設ガイド」を、JR東日本管内の「駅たびコンシエール」に設置、新幹線車内サービス誌「トランヴェール」でも紹介する、JR東日本のウェブサイトに復興ツーリズムに関するポータルサイトを開設する、JR東日本が主催する「復興ツーリズムの魅力を伝える」冊子を開発する、などとしている。

⑤については、東北観光推進機構や旅行会社、航空会社と連携して、インバウンドの誘致に向けて海外の旅行会社やランドオペレーターに向けた情報発信を行うことである。

## 「東日本大震災伝承施設ガイド」は一読の価値あり

このようにJR東日本が中心となって官民様々な団体と協働して、あの手こ

手で東北の震災ツーリズムを推進していくという、非常に興味深く、かつ東北に住んでいる身としては頼もしくありがたい取り組みとなっている。震災発生から既に二二年が経過したが、その記憶とそこから得た教訓とをこの地の次の世代の人たちや他の地域の人たちに伝えていくことは、あの震災を体験した我々にとっても依然重要なミッションである。いや、むしろあの震災を知らない人、あの震災に対する関心が薄れた人が増えつつある今こそより重要な意味を持つとも言える。今回発表された「東北復興ツーリズム推進ネットワーク(仮称)」の活動にも大いに期待したい。

それと、JR東日本も挙げている復興庁の「東日本大震災伝承施設ガイド」、JT Bパブリッシングの「ふるま」が手掛けたことで、とても見やすく分かりやすい冊子となっている。青森・岩手・宮城・福島の四県にある震災伝承施設のうち、駐車場などがあってアクセスがしやすく、館内案内などが充実しているものなど七五の施設についての情報が網羅されている。他地域のみならず、東北に住ぶ我々にとっても、主だった情報をまとめて得られる貴重な媒体である。復興庁のサイトにPDFデータがあるので、ぜひ一度目を通して

手こ

手で東北の震災ツーリズムを推進していくという、非常に興味深く、かつ東北に住んでいる身としては頼もしくありがたい取り組みとなっている。震災発生から既に二二年が経過したが、その記憶とそこから得た教訓とをこの地の次の世代の人たちや他の地域の人たちに伝えていくことは、あの震災を体験した我々にとっても依然重要なミッションである。いや、むしろあの震災を知らない人、あの震災に対する関心が薄れた人が増えつつある今こそより重要な意味を持つとも言える。今回発表された「東北復興ツーリズム推進ネットワーク(仮称)」の活動にも大いに期待したい。

それと、JR東日本も挙げている復興庁の「東日本大震災伝承施設ガイド」、JT Bパブリッシングの「ふるま」が手掛けたことで、とても見やすく分かりやすい冊子となっている。青森・岩手・宮城・福島の四県にある震災伝承施設のうち、駐車場などがあってアクセスがしやすく、館内案内などが充実しているものなど七五の施設についての情報が網羅されている。他地域のみならず、東北に住ぶ我々にとっても、主だった情報をまとめて得られる貴重な媒体である。復興庁のサイトにPDFデータがあるので、ぜひ一度目を通して

# 道の奥に「本当の妖怪」を探して— 今もそこにある、愛しき異界の事

東洋大学という学校が、東京の文京区にある。高校時代に哲学へ関心を寄せた事があり、もと哲学の専門学校であった(早稲田は政治の、明治は法律の—黎明期の私学の多くは一分野の専門学校であった)という事から気になっていた私だが結局その後歴史や民俗学の方へ興味移ってしまい、それらの分野に強いと判断した別の大学を受けて失敗してしまっ。しかしともかくも取り寄せた東洋大学の資料にて、卒業生として最も有名である戦後の作家・坂口安吾の存在を知る事ができ、後々にはかの『遠野物語』の元となった民話の話者・佐々木喜善も一時



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始めると東北好きである。

通った事実も知る事になりしかも私がその後東京に暮らしていく中で出会う友人に何故かこの東洋大学の学生や出身者が多かった事でも、やけに縁のある学校だな、やはりこの大学に行くべきであったか、などと後悔したりもしたのだった。何故縁があったか、という事をいろいろ考えると、とにかく良くも悪くも変わった人間が多いから、という答えがまず思い浮かぶ。優秀かどうか、という事よりも、どこかある意味ひねくれた、変わった人物が多いのだ。それは、安吾や喜善ら、端倪すべからざる業績を残しながらも決して成功者とはいえない面々の軌跡を思い起こせば妙に納得できるように思う。

しかし一方で、安吾は仏教的修行や頭脳ゲーム、喜善は怪奇の民話収集にと、異常な程に何かにのめり込む趣味人でもあり、現代で言えばサブカルチャーの世界に生きる「オタク」的存在に繋がるであろうところも私と何かと縁があった所なのかも知れない(私自身はのめり込み切れない中途半端なオタクである)。

東洋大学はそうした失礼ながら「変わり者」達の受け皿となり、ある意味巣窟となっていたのかも知れないのだが何故この場所が

そうなっていたのかについては、れっきとした理由がある—ようにも思える。実は東洋大学の前身・私立哲学館の創立者である井上円了自身が「妖怪博士」と異名を取るやはりどう読んでも「一風変わった」人物だったのである。本稿では、異色の哲学者が見極めようとした「真実の妖怪」と、その「妖怪行脚」目的地の一角であった東北で彼が見た、そしてその後百年を越えて尚息づくこの地の怪奇の姿に迫ってみたい。

最初に断っておかねばならないが、井上円了は例えばゲゲの鬼太郎を著した水木しげるのように妖怪の姿を凶に表現するような意味での妖怪博士ではない。霊的感受性と怪異への関心が強い佐々木喜善が哲学館に入学したのは創立者・円了が妖怪研究者だった故でもあったが、間もなく自主退学している。と言うのも、妖怪博士とはいえないが実は円了は妖怪否定論者だったからだ。正確には、喜善の時代から現代に至るまで愛される河童や座敷童といった妖怪の存在を否定し、本当の意味での妖怪すなわち「真怪」の追究を指したのである。

「真怪」とは一体何なのか。円了は、妖怪という概念を次のように区分していた—人が人為的に生み出した「偽怪」、誤認や恐怖感など、心理的要因によって発生する「誤怪」、自然現象によって実際に発現する「妖怪」、そして現時点での科学では説明できない現象を「真怪」と呼ぶのだと。東洋大学は、東北大学に次いで私学としては初めて女子学生を入学させた(たまたまであるがその女子学生は山形県出身だった)事で知られるが、創立者・円了自ら今の通信教育や生涯学習に繋がる先駆的な活動を進めた人物であり、当時の知識層に西歐かぶれが多数を占める中、東洋独自の哲学を通じた日本の近代化と自立を自論で進めた。明治・大正に至って未だ濃厚な迷信と蒙昧の闇に支配されていた日本各地方を啓蒙せんとその活動の場は大学を飛び出して、現・中野区の公園である哲学堂を拠点として全国巡回講演活動に後半の生涯を捧げる事となるのである。

ここに、一冊の井上円了の旅の軌跡がある。『山形ふしぎ紀行』—山形県出身の民俗学者・鳥兎沼宏之による一九九一年の著作である。円了自身の著書も数多く、また関連書籍も近年その業績が見直されているのが、その全国巡回講演のうち一地域に絞った記録は珍しい。その目的としては学校施設資金調達などの為、明治二十三年から三十年代にも渡って展開された全国行脚は後に『南船北馬

集』へまとめられたが、その中で山形県は明治二十五年の冬と二十四年後の大正五年夏、二回の巡回が行われている。少ないようにも思えるが、全国全県、離島なども含め実に限なく周っており、誠に果てしなく凄まじい旅半生なのである。巡回講演といっても、ただ自分の話を触れ回るのでなくその土地の人々の話を聞いてつづさに記録し衣食住といった習俗、産業や観光資源を把握して見識を深め、また楽しんでいく。何と、庄内を訪れた際は海岸沿いの私の血筋の商家に宿を取ったりして、ここでも妙な縁を感じてしまったのだが、彼はある時は現・寒河江市にて、某稲荷社に供えた油揚げが一晩で消える事が「神様が召し上がっている」とされる迷信の、またある時は海岸沿いで身体が自由が突然奪われる事を「餓鬼がつく」といって、海に握り飯を投げれば難を逃れるなどと言われる俗説の真相を暴いてみせ、そこに不穏な噂の家あれば地下からのガスや日当たり、また過去の出来事による負の妄想などの影響ありとの合理的な分析も見せる。講演は各地で熱烈な歓迎を受け、満場の盛況であったらしく、当時話を聞いた児童の一人であったという女性は「迷信の強い親の影響で夜が怖かったが、円了先生の狐火も鬼火も怖くない、というお話で気持ち

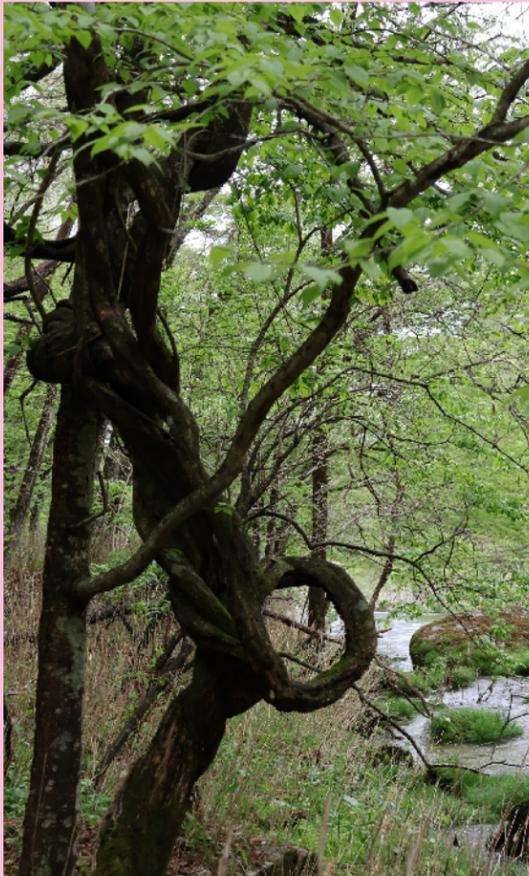
が明るくなった」と語る。一方で現・西村山郡朝日町の大沼に浮かぶ「浮島」の、無風なのに動き、風に逆らって浮遊する不思議さに「これぞ真怪である」と感激する場面もある(この謎は今も解明されていないらしい)。基本的には浄土真宗の寺出身で、「靈魂不滅論」も主張する円了は全ての怪現象が科学的に説明できるとするような唯物論者ではなく、無知や心の弱さが生む迷信と、神仏を誤解させ自利私欲に結び付ける輩を排除して「正しい信仰」を広める事が近代国家に宿を取つたりして、ここでも妙な縁を感じてしまったのだが、彼はある時は現・寒河江市にて、某稲荷社に供えた油揚げが一晩で消える事が「神様が召し上がっている」とされる迷信の、またある時は海岸沿いで身体が自由が突然奪われる事を「餓鬼がつく」といって、海に握り飯を投げれば難を逃れるなどと言われる俗説の真相を暴いてみせ、そこに不穏な噂の家あれば地下からのガスや日当たり、また過去の出来事による負の妄想などの影響ありとの合理的な分析も見せる。講演は各地で熱烈な歓迎を受け、満場の盛況であったらしく、当時話を聞いた児童の一人であったという女性は「迷信の強い親の影響で夜が怖かったが、円了先生の狐火も鬼火も怖くない、というお話で気持ち



『山形ふしぎ紀行』鳥兎沼宏之著 法政大学出版



ラショウモンカズラ



自然の妙



カタクリ



ポタン



ヤマナシの花



オダマキ

シリーズ 遠野の自然  
「遠野の立夏」  
遠野 1000 景より

五十代のサラリーマン時代まで花々をめぐる習慣などなかった。そもそも花々に接する機会がなかった。急に変化したきっかけは、いまでも忘れない。今から十数年前の春、いつもは車通勤のところ、そ

の日は歩いて近くの駅に向かった。いつも歩くときの道は幹線道路で、排気ガスだらけだったので、多少時間がかかって、幹線道路から道を一本隔てて、果樹林の脇道を通った。初めてだった。

春の花々が咲いていた。目に飛び込んでくる花の色がとて新鮮だった。同時に、いつもこうした世界とは縁のない世界だけで暮らしていたことにショックを受けたのだった。



ヤマシャクヤク



タンポポとSL銀河

**【新シリーズ・三陸酒海鮮会】の開催ご報告と今後のお知らせ**  
第52回は4/22日にリピート開催でした。三陸被災地との深い結びつきのある【樽一新宿店】での開催。次の第53回（5/27）三陸酒海鮮会も【樽一】新宿篇で連続開催予定。6月以降は、会のあり方含め企画検討中。

**【基本方針】**

- ① 会は原則として、月一回開催といたします
- ② 毎回会場を変えての少人数開催といたします。
- ③ 今後は、当面の間、毎回、「割り勘」を基本とした料金でお願いいたします。

第52回【樽一新宿篇】は、オリジナルTシャツ  
宮城「浦霞」の飲み比べ、ホヤとで大盛り上り

「ただの東北地酒の飲み会ではいけないのではない  
か？あらためて、今後の会の運営を考え直してみる  
必要があるか？」



集合写真・・・「社長」を中心に複層的なネットワークがあることを皆で確認した！世間は狭い！



ホヤの刺身



社長の“しんちゃん”



浦霞 原酒



ほやおろし



浦霞 純米辛口



樽一オリジナルTシャツ

第53回三陸酒海鮮会の会場も前回同様・・・【樽一新宿】です！  
どうぞよろしくお願ひいたします。  
2022・5・27(土) 17:30～20:30



写真でお伝えする  
**東北の風景**  
**東北の春祭り**

写真撮影 尾崎匠

